

消費者動向調査 No.121

テーマ「冬のボーナス使いみち調査」

- ◆ 調査時期 平成 29 年 10 月
- ◆ 調査対象 福岡県内のボーナスがある世帯の女性 500 人
(うち回答者 492 人、回答率 98.4%)

- ◆ 回答者区分

A.年代

	%
20代	5.9
30代	16.9
40代	35.8
50代	31.3
60代	10.1

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	46.2
妻だけ	8.8
両方	45.0

※当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行
NCBリサーチ&コンサルティング

[調査結果本文]

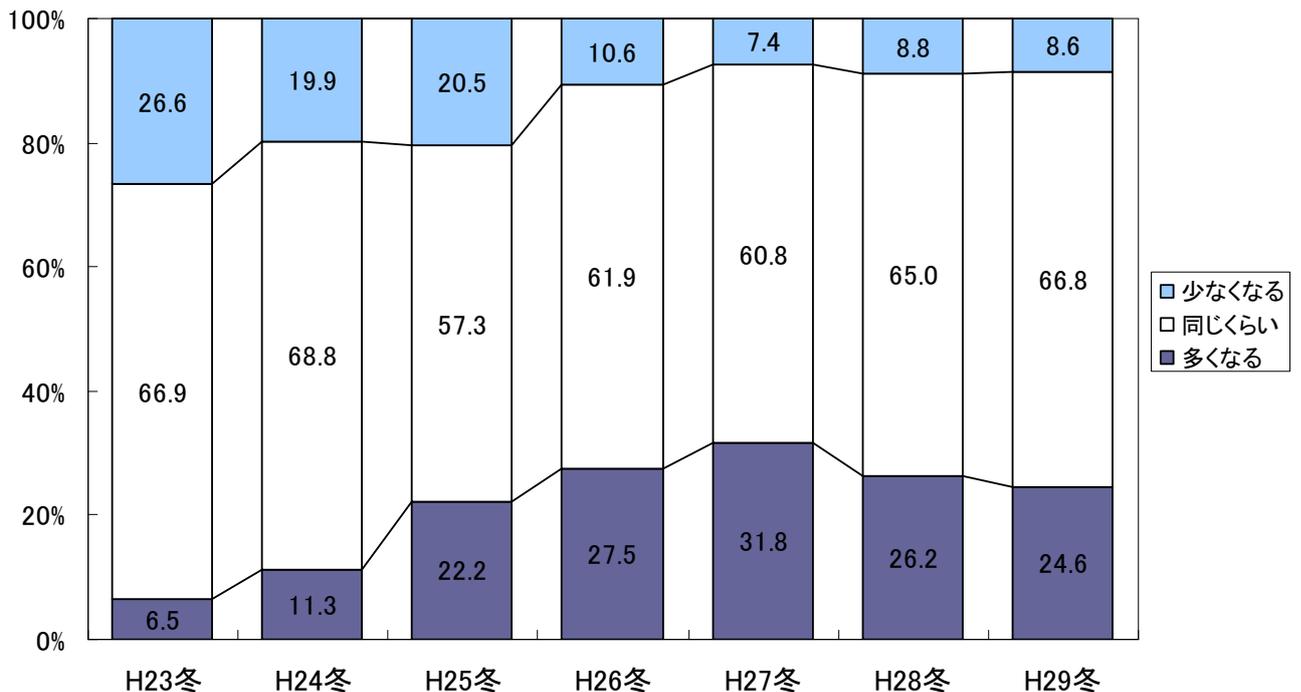
内閣府は10月の月例経済報告で、「景気は、緩やかな回復基調が続いている。」と発表しています。先行きについては、「雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。」としています。

このような中、消費者はこの冬のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、冬のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の女性を対象に夏のボーナスについての消費動向をたずねました。

◆ 今年の冬のボーナス、前年冬と比較して「多くなる」は1.6ポイント減少。

冬のボーナスが前年冬より「多くなる」と予測する割合は1.6ポイント減少し24.6%となった。「少なくなる」は0.2ポイント減少し8.6%、「同じくらい」は1.8ポイント増加し66.8%であった。

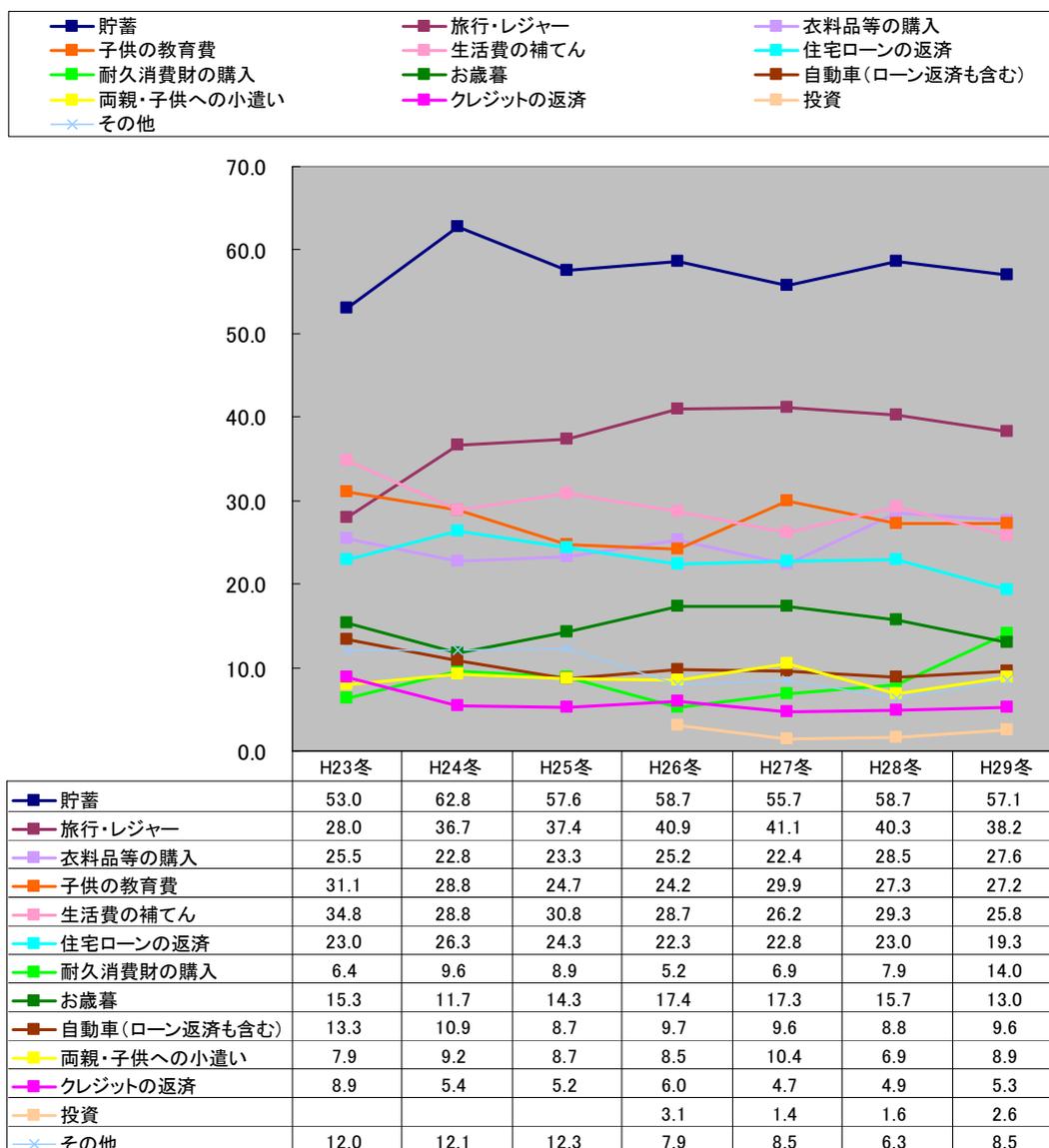
[グラフ1：冬のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか] (単位：%)



◆冬のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で57.1%。2位は「旅行・レジャー」で38.2%。

冬のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で57.1%。これは前年冬の58.7%より1.6ポイント減少した。2位は「旅行・レジャー」で2.1ポイント減少して38.2%。3位は「衣料品等の購入」で27.6%となった。

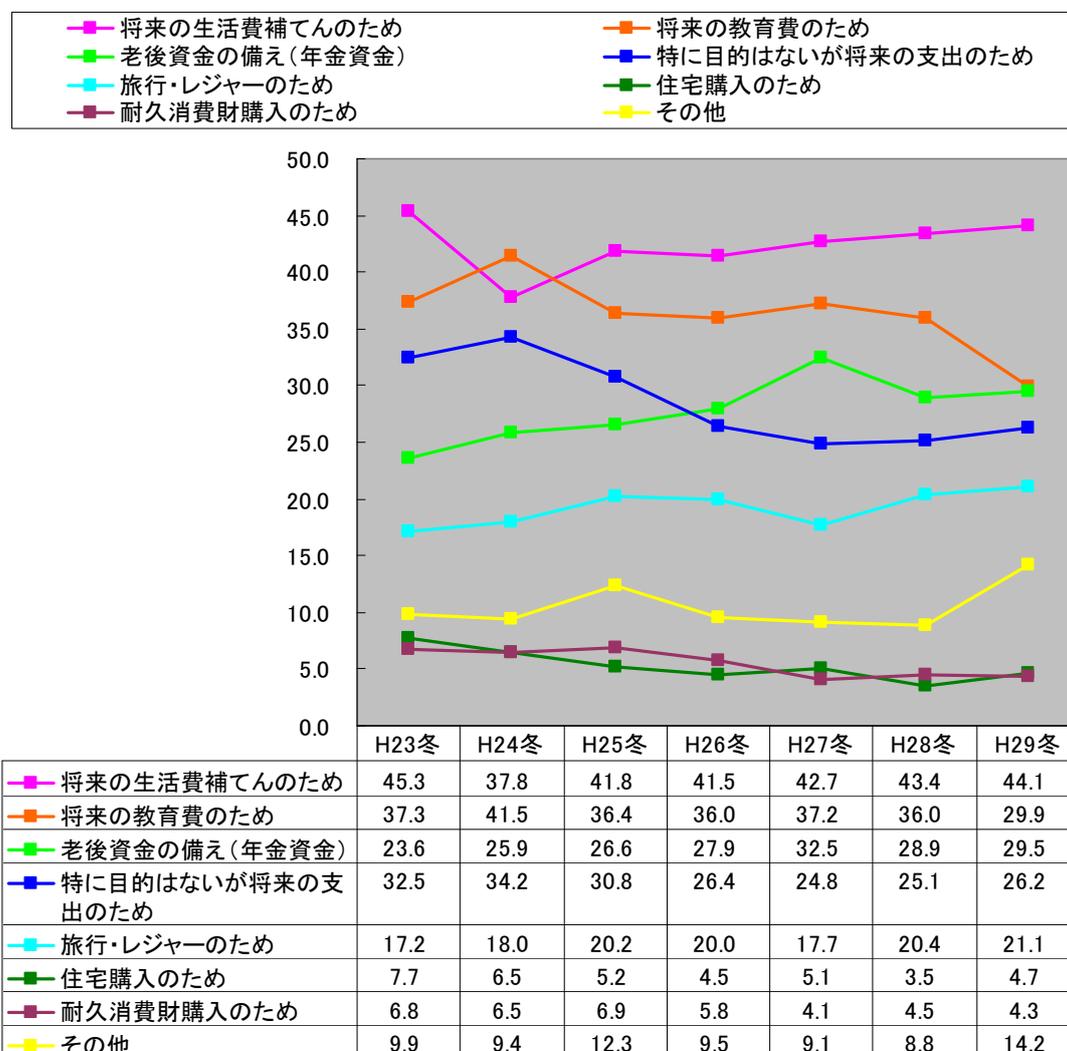
[グラフ2：冬のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] (単位：%)



◆ボーナスを貯蓄・運用する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で44.1%。2位は「将来の教育費のため」で29.9%。

冬のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」で前年冬に比べ0.7ポイント増加し、44.1%。2位は「将来の教育費のため」で6.1ポイント減少し29.9%であった。引き続き将来への備えが上位を占めた。

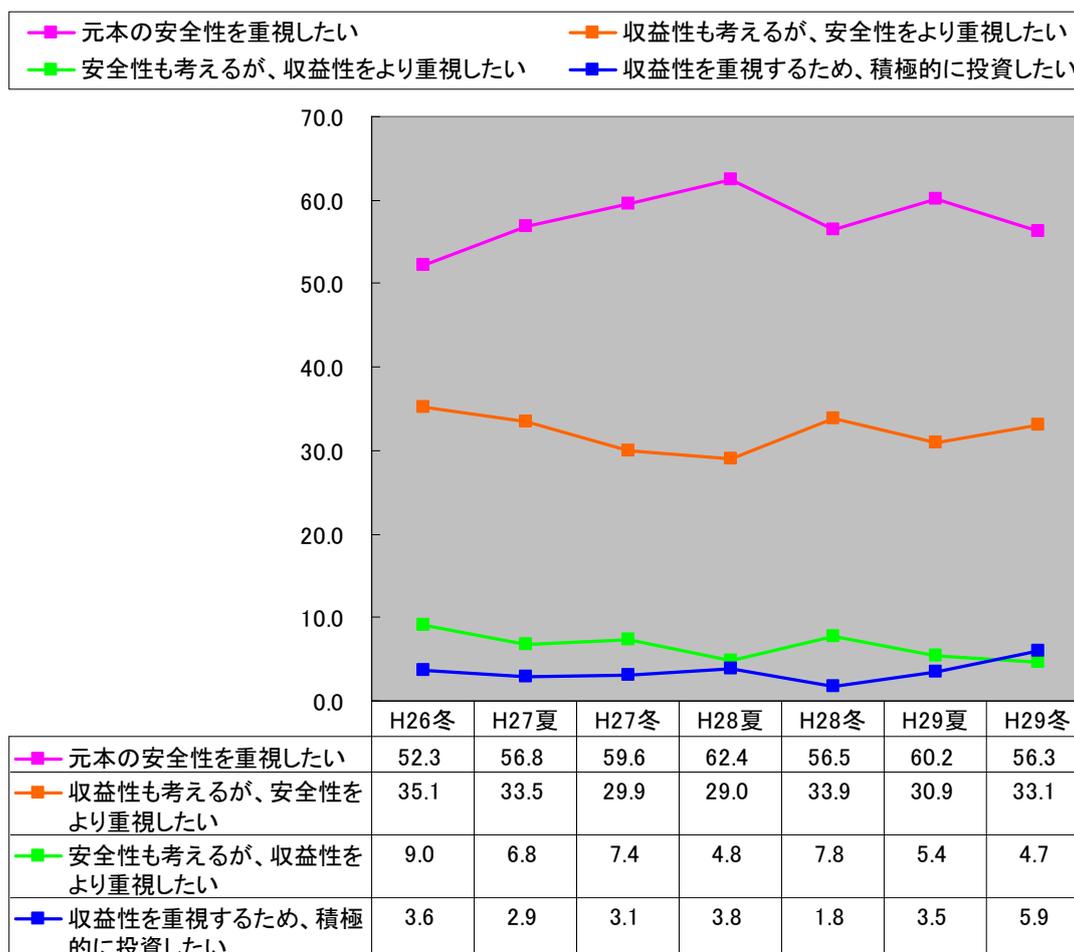
[グラフ3：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄・運用しますか（2つまで）]
（単位：％）



◆冬のボーナスを貯蓄・運用する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が1位で、56.3%。

「元本の安全性を重視したい」が、今年の夏から3.9ポイント減少の56.3%で、15期連続の1位。「収益性も考えるが安全性をより重視したい」が今年の夏から2.2ポイント増加して33.1%。景気は緩やかな回復基調にあるものの、安全性を重視する割合が引き続き高水準である。

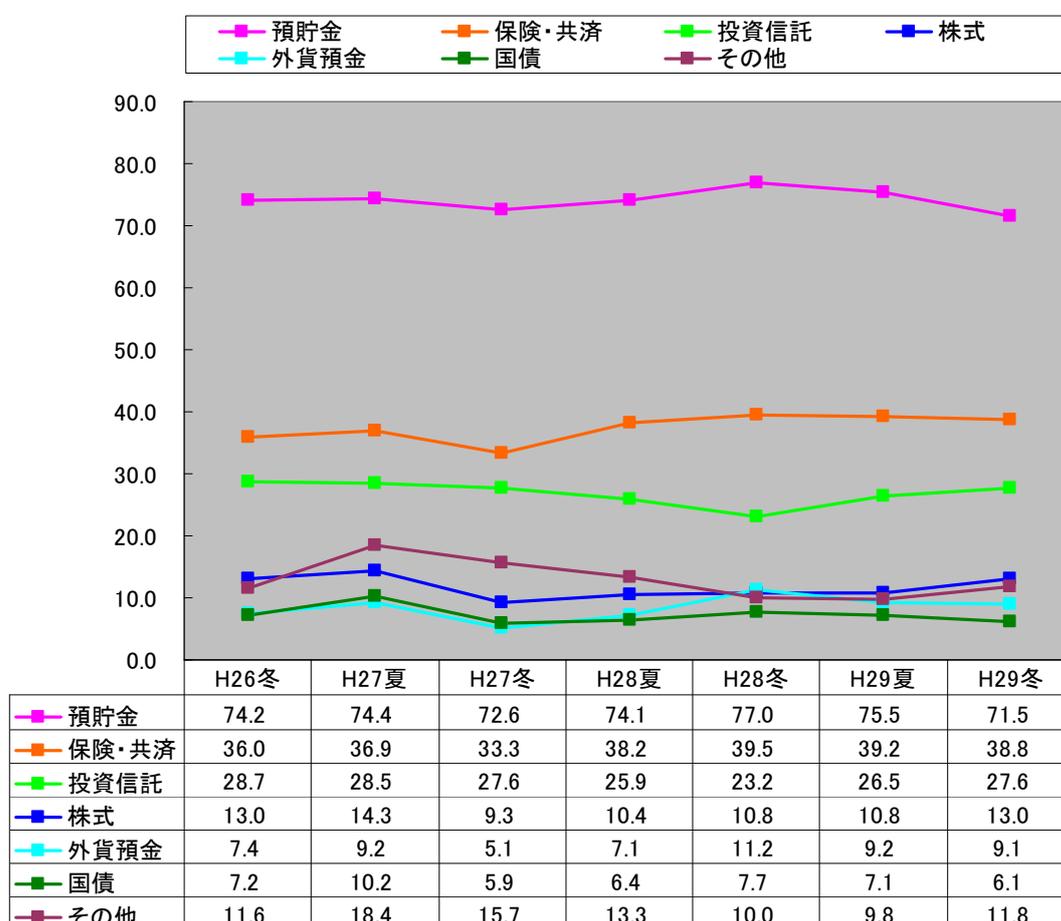
[グラフ4：冬のボーナスを貯蓄・運用する場合、あなたの考えに近いのは]
(単位：%)



◆関心がある金融商品、1位は「預貯金」で今年の夏より 4.0 ポイント減少し 71.5%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が 71.5%で 1 位。2 位は「保険・共済」で 38.8%。安全資産への関心は依然高いものの、低金利の影響もあり「預貯金」、「国債」への関心が低下する一方、株価が堅調だったこともあり「株式」、「投資信託」への関心が高まった。

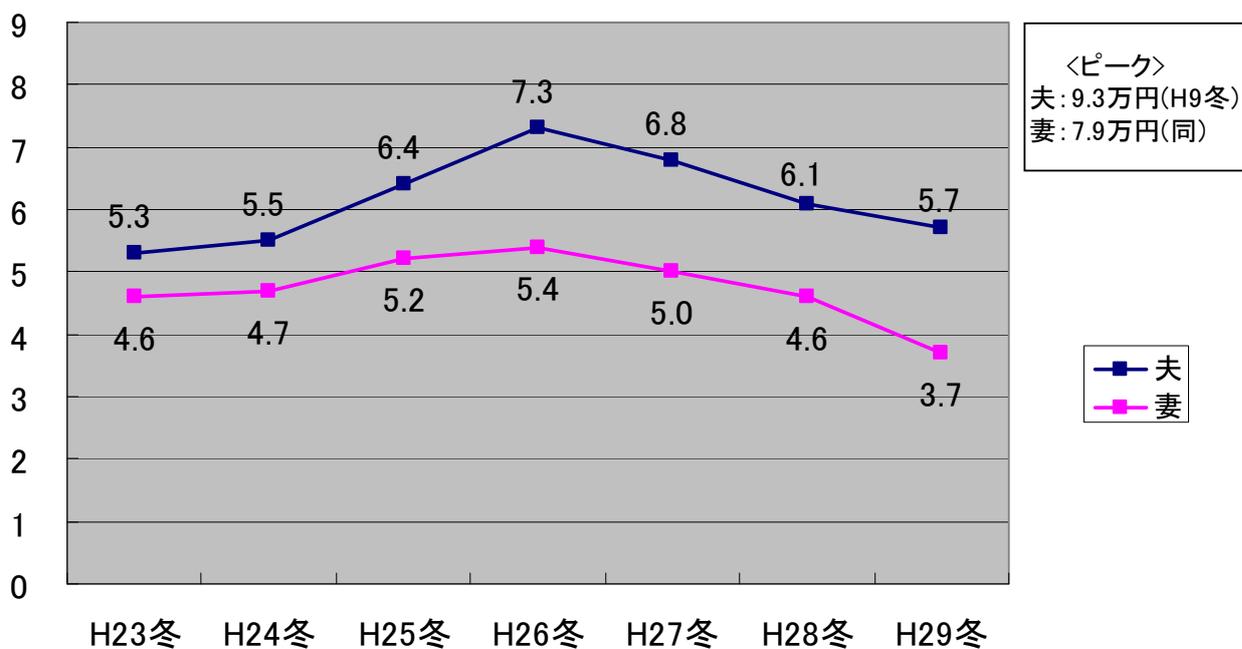
[グラフ 5：どのような金融商品に関心がありますか (いくつでも)] (単位：%)



◆冬のボーナス、自由に使える金額は、前年冬に比べて夫は 4 千円ダウン。妻は 9 千円ダウン。

冬のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.7 万円（前年冬比 4 千円減）。妻が自由に使える金額は平均 3.7 万円（前年冬比 9 千円減）。冬のボーナスが「多くなる」との予想が減少したことを受け、自由に使える金額は前年の冬から夫・妻ともに減少し、特に妻は過去最低となった。

[グラフ 6 : 冬のボーナス、自由に使える金額はどれくらいですか]
(単位 : 万円)



この調査に関するお問い合わせ先は
 西日本シティ銀行 広報文化部 本郷・長谷川 TEL 092-461-1869
 NCB リサーチ&コンサルティング調査部 原 TEL 092-476-3051